

平和な世の中を維持していくためにできること

1 対象学年 中学2年生

2 ねらい

日本は今年で終戦 70 年を迎え、戦争を経験してきた世代は少なくなっている。その中で、子どもたちに戦争中の悲惨な状況をしっかりと伝えて理解させ、今のわたしたちのくらしが平和で幸せなことを実感させる必要がある。そして、このくらしがこれからも続き、よりよくしていくために、未来を担う人間として、何ができるかを考えさせることが大切であるとする。

子どもたちは、本やインターネット、テレビなどから戦争に関する情報を得ている。しかし、戦争のことを子どもたちに尋ねても、教科書に載っていることしか答えず、戦争が本当に身近に起こったことであるという認識はあまりされていない。そのため、実際に戦争を経験した方の話を聞いたり、知っている身近な土地で戦争が起こったことがわかる資料を活用したりすることで、戦争の悲惨さを身近に感じさせ、今のくらしが平和であることを再確認することが必要であるとする。

本実践で活用する「かたりべDVD」は、戦争を経験された方の生の声が収録されているものである。本やインターネットなどの文書に目を通すのではなく、実際に話している人の姿を見ながら聞くことで、戦争の悲惨さや恐怖がより感じるができるようになる。かたりべの方から未来を担う子どもたちへのメッセージを聞くことで、子どもたちに現在の平和な世の中に感謝の気持ちをもたせたい。

また、「焼け跡に立つ虹」の資料の一部を使用する。焼け跡に立つ虹「おばあちゃんの戦争体験」は、戦争当時、愛知県で戦争を経験された方々の実体験が書かれているものである。聞いたことのある地名や、戦争の悲惨をよく伝える文章表現があり、資料を取り上げることにより、子どもたちが現在住んでいるこの地域が、当時に比べてはるかに平和であると感じることができる。さらに、本実践では、使用する資料にある3項目（食、空襲、学校生活）について、戦時中と現在を比較して考えさせることで、現在のくらしがいかに幸せであるかを感じさせたい。そして、現在の平和なくらしがこれからもずっと続けられるように、中学生である子どもたちに何ができるのかを考えさせ、平和なくらしを愛し続ける気持ちを高めさせたい。

3 指導の流れ

(1) 準備

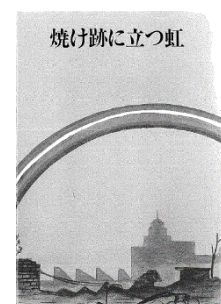
かたりべDVD（2015 平和学習会）、焼け跡に立つ虹「おばあちゃんの戦争体験（P115～）」、ワークシート、名古屋城の写真2枚（空襲時・現在）

読み物資料「焼け跡に立つ虹」



おばあちゃんの戦争体験（P115～P118）

著・出版 愛知県教員組合

- おばあちゃんとその孫との会話の中で、戦時下のくらしについて書かれているものである。主に、「①食について ②空襲について ③学校での生活について」書かれている資料である。



(2) 指導計画

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
5分	<p>1 空襲に関する写真を見て、「平和」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 名古屋城の炎上している写真と現在の写真を見せる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <空襲で燃える名古屋城> <現在の名古屋城> </p> <ul style="list-style-type: none"> 昔と比べて、今の日本は平和であるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 炎上している写真が何の建物であるか考えさせてから、名古屋城であることを伝える。 ○ 平和であると感じる子どもは挙手させる。また、数人指名し、なぜ平和と感じるか発表させる。
20分	<p>2 資料を読んで、日本のくらしの変化を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の日本のくらしをまとめる。 資料を読み、過去の日本のくらしをまとめる。 現在と過去の日本のくらしを比較し、気付いたこと、感じたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「焼け跡に立つ虹」の中の、「おばあちゃんの戦争体験」の資料を配付する。 ○ 過去の日本のくらしについて分かったことを3項目（食、空襲、学校生活）に絞って発表させる。 ○ 現在の日本のくらしと比べるために、前の発問で出てきた意見と比較する。 ○ 感想を述べさせるとともに、どの事実から感じたことなのかも話をさせる。 ○ 自分の今の状況と比べてどのように感じたか考えさせる。
25分	<p>3 かたりべDVDを視聴し、日本の未来について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> かたりべDVDの子どもたちへのメッセージを視聴する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度の夏、実際に広島で撮影したものであることを知らせ、興味をもたせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平和なくらしを続けていくために、今私たちがやるべきことを考える。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦争に関する本を読みたい。 ・ ニュースや新聞を読んで、知識を身に付けたい。 ・ 物を大切にしたい。 ・ 給食を残さず食べたい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートを配付し、記入させ、自分の考えを明確にさせる。 ○ 壮大な計画ではなく、本時以降すぐに取り組めるようなことを出させる。 ○ できることを共有し、学級全体の意識を高める。
--	---	--

4 実践のまとめ

(1) 平和であるか考える

はじめに、空襲で燃えている名古屋城と現在の名古屋城の写真を見せた。はじめは何の写真か分からない様子であったが、燃えていると分かったら「名古屋城？」とつぶやく子どもがいた。なぜ燃えているかということは、モノクロ写真であることから「空襲」と気付くことができたようで、名古屋城が燃えていることに驚いている子どもが多く見られた。続けて、今の日本は平和であるかという問いに対して、8割の子どもは平和であると答えた。その理由としては、食べ物に不自由してないことや学校に通えていることなどがあげられた。それに対して、平和でないと答えた中には、安全保障にかかわることをあげる子どももいた。

(2) 資料「焼け跡に立つ虹」を読んで、日本のくらしの変化について考える

「今のくらしで困っていることは何か」と問いかけると、子どもたちは、「消費税が高い」「夜一人で出歩くことが怖い」などといった戦争当時には考えられないようなことがあげられた。

そこで、焼け跡に立つ虹の資料を配付し、黙読させた。戦争当時困っていたと思う箇所に線を引かせながら読ませた。すると、多くの子どもたちから以下のような意見があがった。

<p>○ 今のくらしで困っていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費税が高い。 ・ 夜一人で歩けない。 ・ 寝不足である。 ・ 家の洗濯機が壊れた。 ・ おこづかいがない。 	<p>○ 昔(戦争当時)のくらしで困っていたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食べ物が手に入らない。 ・ おなかがふくれない。 ・ 配給であり、それも遅れていた。 ・ お風呂に入れない。 ・ お金を持っていても物に変えられない。 ・ 上の学校へ行けなくなった。
---	---

今のくらしと比較しながら当時のくらしについての感想を聞くと、「つらい」「苦しい」「こんな生活したくない」などという意見が出た。

(3) 「かたりべDVD」を視聴し、日本の未来について考える

原爆投下時の様子を知るために、「かたりべDVD」を使用した。広島駅での被爆の様子を鮮明に語ったものであるため、言葉も出ず、子どもたちはその話に引き込まれていくのがとてもよくわかった。非常に生々しい表現も含まれていたため、うつむく子どももいたが、多く

は真剣な眼差しで最後まで視聴していた。

次に、「わたしたちがすべきこと」についての話を続けて視聴した。その後、「今、自分がすべきことを考えよう」と問いかけ、ワークシートに書かせた。すぐにでも取り組めることを書くように指示したところ、次のような意見が出された。

- ・ 戦争のことをもと詳しく学ぶ。
- ・ 家族や周りの人に、自分が学んだことを伝える。
- ・ 70年前の戦争のことや、今起きている他国での争いなどのことを知り、しっかりとした自分の意思をもつ。
- ・ 今、自分が生きていることに感謝をする。



【DVDを視聴する様子】



【授業の感想を真剣に書く様子】

最後に、学習を振り返り、感想を書かせた。子どもたちの感想は以下の通りである。自分たちが考えていた以上に苦しい生活を強いられていたことに驚いたり、今のくらしに感謝する気持ちをもてたりと、それぞれのとらえ方で学習ができたと考える。

戦争は本当にしたくないものだけれど、そのために何をすればいいのか。という事を
しっかりと考えていかねばいけないと思う。

報復した人の話を聞いて戦争はとておそろしい事を知ったので
さらに戦争がおこらないように自分のできることをしたいです。

【子どもたちの感想】

5 実践の成果と今後の課題

「焼け跡に立つ虹」を読み、身近な地名を目にすることで、子どもたちは戦争の悲惨さを今まで以上に感じる事ができた。多くの子どもたちが他人事ではいられないと感じたようであった。また、かたりべDVDを視聴し、自分たちが考えていた以上の広島の惨状を知り、70年前の出来事を現実起こっていたものだと再確認させる事ができた。

そして、当時のくらしと自分たちのくらしを比較したり、今できることを考えたりすることで、現在のくらしが平和であると感じることができた子どもたちが多かった。戦争に無関心、無関係であると思ってきたこれまでとは違い、「戦争のことをもっと知りたい」「未来を生きていくわたしたちが平和について真剣に考えていかなければいけない」などといった意見から、無関心、無関係ではいられないといった思いにさせる事ができた。

しかし、今回取り上げた内容は、戦争のほんの一部にしか過ぎない。日本の過去をもっと深く知り、今回子どもたちの中に芽生えた平和への意識をさらに広げていく場を今後積極的に設定する必要があると感じた。

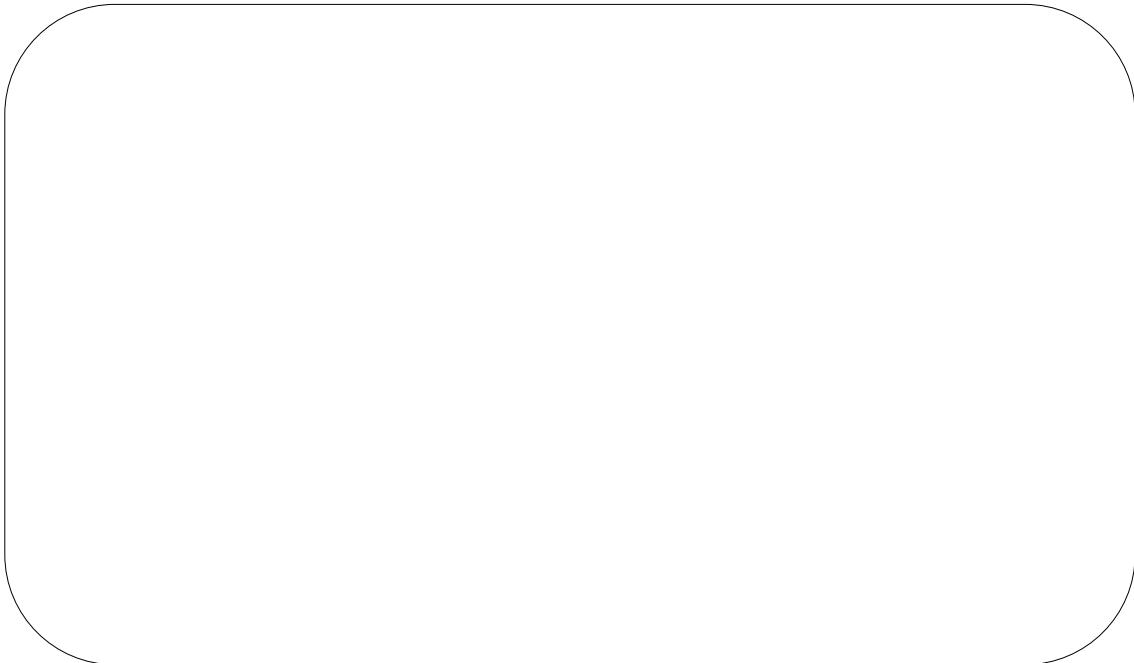
平和な世の中を維持していくために

名前 _____

- 今、自分がすべきことを考えよう。



- 授業を振り返って



◆戦時下のくらし



おばあちゃんの戦争体験

孫 伊藤久仁
おばあちゃん 青山さと

「おばあちゃん、戦争のこと、今いけば心算していることは何。」

「そりゃあ、食べ物のことさ。子どもが多かったし、食べ物はずに入らないし、いつもいづもなかをすかしていたもんだ。苦しかったんだよ。」

「どんなふうに。」

「なんでも配給でね。家族の人数分だけ、米とか野菜とかをもらいに行くんだ。配給はいつもおくれではかりだし、ほんの少ししかもらえなかつたね。米はほんの少しだし、米の代わりに、米の代わりに、米の代わりだ。いって、小さなかぼちゃとか、じゃがいもを切ってほしたものが配られたもんだ。米が少ししかもらえないうちから、いづもおかゆにして、配られたものや、さつまいもを入れて置をふやすんだよ。中には雑草を入れていた人もいたね。さつまいもは心算、めつたに食くらねなかつたよ。」

「いつもそんなものはかりては、栄養もとれないし、困つたでしょうね。」

「栄養どころか、おなかもふくれないうちから、大切にしていた着物なんかを田舎へ持って行って、米や野菜や炭と交換してもらったよ。お金なんか持っていないともだれも代えてくれんからね。何よりもまず食べ物だつたさ。」

「雑草まで食べたというけれど、ほかにほどんたのを食べたの。」

「ちいばんと覚えていたのは、おこのみ焼だね。空襲が終つた町なんか、よかつた。これて今日も命があつた』と思つて。そんな時に、大切にしまつておいた麦をどいりに一杯出してくるんだ。そして、おじいちゃんに相談して、粉にするんだ。水でわつてから火はちの上で焼くんだが、おこのみ焼といつても、ほかには何にも入れないんだ。けれども、おじいちゃんか、あんまりおしくて、のどが『キョッキョ』となるんだ。こんな話は知らない人も、いれないね。何しろ雑草を食べていた人が多かつたからね。配給だけでは、とても生きていかれないから、いろいろ工夫をして食べ物を手に入れたもんだよ。おじいちゃんか、一杯一杯のわかれを手に入れてくれた時は、うれしかつたね。おかゆの中に入れて食べたんだが、とてもおじいちゃんも、ゴムでできた地下たびを焼津まで持って行って、さば二十本と交換してもらつたこともあつた。けれども、いづもお金かはずいて、『いづもお金かはずい借金中』だつたさ。」

「ほかにどんなこと困つた。」

「おらんかかか入ねなかつたことだね。まきが手に入らなくてね。どなりの家なんか、いづもに字の教科書まで燃やしたぞうだ。せつけんもめつたに手に入らないから、手も顔もがさがさになつてしまつてね。体中しらみだらけになつて、頭なんかしらみの卵でまっ白になつていたよ。」

「でもね、食べ物に困つたり、おふるへ入れなかつたりしても、生きていられたからね。」

「こわいめにあつたの。」

「空襲はこわかつたね。焼夷弾が落ちると『バチバチ』という音がして、あたりが一面にまっ赤になつてしまふんだ。この周りはまだ良かつたけれど、名古屋はひどかつたね。名古屋が空襲にあつたこの周りを風のように明るくなつてね。すぐ近所にも焼けてしまつたところがあるよ。だから、家具なんかは、ほんと田舎へ送つてしまつていたよ。」

「でも、うちは本当に運がよかつたよ。お父さんなんか広島に原子爆弾が落ちた時、ちょうど柱の影にいて助がつたつていうしね。観せきにも兄弟四人全部死んでしまつた家もあるしね。」

「学校へはみんな行つたの。」

「ほとんどの人が上の学校へ行けなかつたね。行つたとしても、軍需工場や兵器を作らされたから勉強なからなかつたよ。それに、学校で畑を作つて野菜をとつたりして、いづからね。」

「まづ命。その次に食べ物。それだけを考えていたね。赤ちゃんといる家なんかは本当に困つたもんだよ。お母さんに栄養が足りないから、お乳が出なくてね。赤ちゃんと大きくなれなかつたよ。」

「本当につらくて、苦し毎日だつたよ。」

〔調査日井野田紀島野佳〕